



画像① 画像提供:大岡信ことば館

## 詩人・大岡信 展

2015年10月10日(土)~12月6日(日) 世田谷文学館

---

お問い合わせ 世田谷文学館 学芸部 担当:小池・佐野

TEL: 03-5374-9111 FAX: 03-5374-9120

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10



画像② 画像提供:大岡信ことば館

詩人として、また気鋭の評論家として若くから卓越した才能で頭角を現した大岡信（1931～）。古今の詩歌に造詣が深く、フランスをはじめとした海外の詩や文芸にも通じ、言語の壁をこえた国内外の詩人との「連詩」という新たな詩の境地も開拓しています。

本展では、大岡文学の核となる「詩」の業績を、詩稿、創作ノートなど貴重な資料で掘り下げます。また、詩歌鑑賞の魅力を広めた名著『折々のうた』や同時代芸術家との交流を物語る資料、作品などで多彩な活動を紹介します。

## 【主な出品資料】



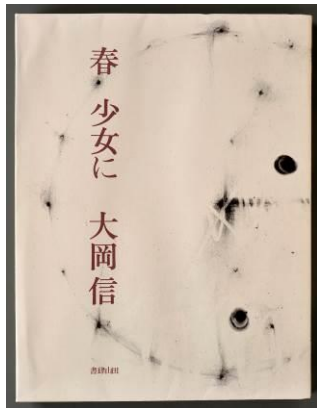
画像③ 第一詩集『記憶と現在』（1956年）



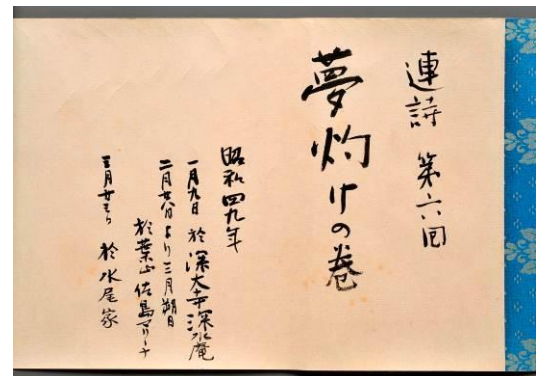
画像④ 加納光於、大岡信  
《アララットの船あるいは空の蜜》No.1  
(1971～72年)  
個人蔵



画像⑤ 詩集『遊星の寝返りの下で』（1975年）



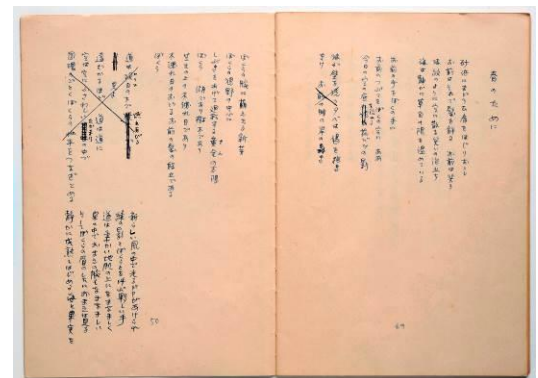
画像⑥ 詩集『春少女に』（1978年）



画像⑦ 「權」同人連詩 第六回「夢灼けの巻」自筆軸（1974年）  
個人蔵



画像⑧ 『折々のうた』（1980～84年）  
岩波新書の最初の4冊



画像⑨ 詩稿「春のために」  
大岡信ことば館蔵

## 【関連催事】会場：1階文学サロン

### 【1】連続講座「大岡信の詩と真実」

大岡信氏の詩にはじめて出会ったのは、「春のために」と題する青春賛歌でした。大学の文学サークルの機関紙に発表された作品でした。三十行ほどの詩句の言葉がすべて瑞々しい爽やかな感性の香気を放ち、生きる希望と愛をみなぎらせた詩想が鮮烈に躍動するのに、驚異の眼を見張る思いがしました。ただ敗戦から五年か六年、朝鮮戦争の時期でもあり、<sup>はつらつ</sup>澁澁たる賛歌の背景に、不安な時代へのまなざしがひそかに研ぎすまされているのが、感じとれたことも言いそえなければなりません。

それ以来、大岡氏が年とともに、詩想の領域をひろげ詩法を深めてゆく道程を、近距離から見つけてきました。大岡氏の古典詩歌への造詣、シュールレアリスムなど西欧の詩への理解、造型芸術の美の探求はよく知られている通りですが、それが詩作の養分になっている事実も見落とせません。さらにまた、簡潔な随想の形式で、長年にわたって、詩歌の魅力をひろく一般の読者に説きあかした『折々のうた』は、詩人の仕事として画期的なものでした。

私ども世田谷文学館では、大岡氏の詩歌における豊富で多面的な業績の精髓をあらためて考える機会を作るべく、大岡氏の詩業に親しんでこられた方々にご出講をお願いし、連続講座を開催することにいたしました。多くの方々のご来館、ご聴講を待望しております。

世田谷文学館 館長 菅野昭正

#### 第1回 10月10日（土） 高橋順子（詩人）

高橋順子氏ははじめ編集者として、大岡氏の仕事に関わった方であり、その当時から大岡氏の詩業に深い関心を抱いておられたであろうと推察されます。そしてご自身が詩人として活動されるようになってから、今度は詩人の自覚的な視線が向けられることになったのではないかと。女性詩人が大岡氏の詩作品をどう読むのか、これはまたとない機会となるにちがいありません。

#### 第2回 10月17日（土） 野村喜和夫（詩人）

戦後詩という用語は戦後に書かれた詩を指すのではなく、戦後社会をめぐる詩的思考を結晶させた詩のことです。野村喜和夫氏は変動する新しい時代の気流のなかで、戦後詩にたいする批判と共感を意識的に創造の動力に組みこんできた詩人です。大岡氏についても、そういう詩人にしてはじめて感知できるものが多々あるはずで、この機会にそれを存分に披露して頂ければと願っています。

#### 第3回 10月24日（土） 谷川俊太郎（詩人）＋ 三浦雅士（評論家）対談

谷川俊太郎氏は大岡氏とほぼ同じ時期に、敗戦後の新しい世代を代表する詩人として登場されました。<sup>じらい</sup>爾来、同じ雑誌で活動するなど、緊密な相互理解の絆を結びつづけてこられました。詩人・大岡信の業績の裏表を、初期から円熟期に至るまで知悉しておられる谷川氏は、右に出る者のない最高の知己という言葉がふさわしい方です。

三浦雅士氏はまず編集者として、大岡氏と接することになったと聞いています。執筆者の仕事の特徴を的確に洞察し、協力を惜しまぬ優れた編集者でしたから、大岡氏から深い信頼を寄せられたに違いありませんし、また大岡氏の業績全般にわたって行きとどいた考察を積みかさねてこられたはずで、谷川氏と三浦氏、それぞれ異なる立場で、大岡氏にたいし厚い親炙を<sup>しんしや</sup>惜しまれなかつたお二人の対談から、貴重な教示の数々が汲みとれるものと確信しております。

#### 第4回 10月31日（土） 長谷川權（俳人）

長谷川權氏は申すまでもなく、俳句の世界で現在もっとも旺盛な活躍を注目されている俳人です。また『折々のうた』を引きつづき詩歌随想を「四季」と題して、新聞紙上に毎日書きつがれています。そこにも見てとれるように、古典詩歌にも透徹した見識をそなえておられ、『折々のうた』が築きあげた大きな功績を解明することにかけて、余人をもって代えがたい最適の方であるはずで、

## 第5回 11月1日(日) 吉増剛造(詩人)

吉増剛造氏にとって、大岡信氏はどういう存在であったか—これは大いに興味ぶかい問題です。というのも、後続する世代に属する吉増氏にとって、大岡氏は敬愛する先行詩人であると同時に、乗り越えるべき障壁でもあったと考えられるからです。大岡氏の何をどう受けつぎ、何をどう乗り越えようとしたのか、そのあたりの記憶と現在をぜひ承りたいと思っております。

時 間=各回 14:00~15:30  
対 象=一般  
定 員=事前申込各回 150名  
参 加 費=各回 500円  
申込締切=各2週間前(必着)

## 【2】朗読会「ことばの海へ 大岡信を読む」

「折々のうた」や代表的な詩のほか、ラジオドラマ、連詩の試みも取り上げます。

日 時=11月7日(土) 13:30~16:15(途中休憩あり)  
出 演=声を楽しむ朗読会  
司会・解説=福島勝則(多摩美術大学名誉教授)  
対 象=一般  
定 員=当日先着 100名  
参 加 費=無料

## 【3】コトバのミュージアム「ことばと詩」

「詩」って、むずかしいのかな?ことばであそびながら詩のなかへ“たんけん”しに行こう!

日 時=11月15日(日) 14:00~16:00  
講 師=石津ちひろ(詩人)  
対 象=小・中学生  
定 員=事前申込 100名(未就学児、付添の大人も参加可)  
参 加 費=無料  
申込締切=11月1日(必着)  
\*申込ハガキに、参加されるお子さん全員の年齢か学年を明記してください。

### 関連催事【1】・【3】の申込方法

各開催日の2週間前(必着)までに往復ハガキにて、①講座名・開催日②参加者全員の氏名・住所・電話番号③返信面に代表者の氏名・住所を明記し、世田谷文学館「大岡展催事」係までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。

宛先 〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館「大岡展催事」係

※1 講座につき1通ずつ。【1】連続講座の5講座全てをお申し込みの方は、9月26日(必着)までに全講座受講の旨を明記のうえ、1枚の往復ハガキでお申し込みいただけます。2人まで連名可。

※【3】コトバのミュージアム「ことばと詩」は、付き添いの大人も含めて何人でも連名記入可。

## 開催要項

展覧会名	詩人・大岡信 展
会 期	2015年10月10日(土)～12月6日(日)
会 場	世田谷文学館 2階展示室
開館時間	10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)
休館日	毎週月曜日(10月12日、11月23日は開館、翌日休館)
観覧料	一般800(640)円、65歳以上・大学・高校生600(480)円、小・中学生300(240)円 障害者手帳をお持ちの方400(320)円 ※( )内は20名以上の団体割引料金 ※10月16日(金)は65歳以上無料(年齢を確認できるものをご提示ください)

交通案内	京王線 「芦花公園」駅南口から徒歩5分 小田急線 「千歳船橋」駅から京王バス(歳23系統「千歳烏山駅」行) 「芦花恒春園」下車徒歩5分
------	---

主 催	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
監 修	岩本圭司(大岡信ことば館館長)、菅野昭正(世田谷文学館館長)
特別協力	株式会社増進会出版社 大岡信ことば館
協 賛	株式会社ウテナ
後 援	世田谷区、世田谷区教育委員会

次回企画展 「浦沢直樹展」(仮称) 2016年1月16日(土)～3月31日(木)



公益財団法人 せたがや文化財団

**世田谷文学館**

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062

東京都世田谷区南烏山 1-10-10

TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120

<http://www.setabun.or.jp>

# 「詩人・大岡信」展 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 大竹・宮崎 行  
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、FAXにてお申し込みください。EメールにてJPGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

※読者・視聴者プレゼント用に招待券をご用意しています。ご希望の場合は、あわせてお申し込みください。  
(プレゼント当選者への発送作業は御社にてご負担ください。)

## 広報用画像貸出条件

- 画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- 画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- 画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- 画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後は必ず削除してください。
- 画像には撮影者、提供先のクレジット表記を必ずお入れ下さい。

掲載雑誌名・番組名・WEBサイト名

媒体種別 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト

発売・放送・更新予定日

御社名

御担当者名

御住所

Eメールアドレス

電話番号

FAX 番号

画像(ご希望の画像番号に印をつけてください。)

- 画像① 大岡信肖像(画像提供:大岡信ことば館)
- 画像② 大岡信肖像(画像提供:大岡信ことば館)
- 画像③ 第一詩集『記憶と現在』
- 画像④ 加納光於、大岡信《アララツの船あるいは空の蜜》No.1 個人蔵
- 画像⑤ 詩集『遊星の寝返りの下で』
- 画像⑥ 詩集『春 少女に』
- 画像⑦ 「權」同人連詩 自筆軸 個人蔵
- 画像⑧ 『折々のうた』岩波新書の最初の4冊
- 画像⑨ 詩稿「春のために」 大岡信ことば館蔵

プレゼント用招待券をご希望の場合は、いずれかに印をつけてください

- 5組10名様分
- 10組20名様分